多摩大学附属聖ヶ丘中学校

二〇一九年度入試問題

国語

第二回（二月一日午後実施）

二〇一九年度　入学試験問題　（二月一日午後）

国語

多摩大学附属聖ヶ丘中学校

一　開始の合図があるまで問題用紙・解答用紙にふれないでください。

二　開始の合図があったら、最初に問題用紙十ページ、解答用紙二枚を確認してください。

三　解答用紙に受験番号と氏名を記入してから始めてください。

四　問題についての質問は受け付けません。印刷のはっきりしないところや用事がある時は、声を出さずに手をあげてください。

五　字数が指定されている問題は、記号・句読点も一字として数えてください。

六　問題用紙は回収しません。

七　筆記用具の貸し借りはしないでください。

八　試験時間は五十分です。終了五分前になったら知らせます。

九　答案を書き終わっても座席からはなれないでください。

一

次の⑴〜⑸の――線部の漢字をひらがなに、⑹〜⑽の――線部のカタカナを漢字に改めなさい。

⑴ お祭りに浴衣を着ていく。

⑵ 学問に時間を費やした。

⑶ 生地をこねてパンを焼く。

⑷ 休日は専ら野球ばかりだ。

⑸ 交通法規を犯し捕（つか）まる。

⑹ 銅がサンカして変色する。

⑺ セイカダイを目指して走る。

⑻ 将来はハイユウを目指す。

⑼ 事実にモトづいて考える。

⑽ 反対運動にショメイする。

二

次の(1)～(5)の各文の（　　）にあてはまる言葉として最もふさわしいものを、それぞれア～ウの中から一つ選び、記号で答えなさい。

(1) 母が、今日の放課後、学校に（ア うかがいます　イ いらっしゃいます　ウ おこしなさいます）。

(2) 校長先生が、私のクラスの授業を（ア 見ます　イ 拝見します　ウ ご覧になります）。

(3) 先生が、「明日の連絡（らく）するのでメモを取りなさい。」と、（ア 言った　イ おっしゃった　ウ 申した）。

(4) 絵がほめられて先生がごほうびを（ア いただいた　イ くださった　ウ もらいなさった）。

(5) お正月に祖母が用意したごちそうをみんなで（ア めしあがった　イ いただいた　ウ お食べになった）。

三

次のカタカナの文章を読んで、漢字とひらがなと読点を正しく用いて書き直しなさい。

カブトムシノツノノハエカタニジュウヨウナヤクワリヲハタスイデンシヲトクテイシタトケンキュウグループガハッピョウシタ。コンチュウノツノノシンカノカテイヲシルテガカリトナルトイウ。ツノハオスノバアイトウブカラノビタオオキナモノトセナカガワノチイサナモノガアリサナギニナルチョクゼンノヨウチュウダンカイデアラワレハジメル。

四

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。（なお、作問の都合上省略した部分があります。）

ニホンオオカミは江戸時代には、北海道を除く日本全国に生息していたという。

以前に、和歌山大学と国立科学博物館で保管されているニホンオオカミの剥製標本を見たことがある。しかし、その二体のオオカミは私が抱いていたオオカミのイメージからは程遠いものだった。何より顔が愛らしくやさしい感じがする。オオカミというと耳まで裂けた恐ろしい形相がイメージされるが、標本のニホンオオカミはまるで違う。どちらかというと、近所の犬のような感じなのだ。

（　A　）、想像していたよりもずっと小さい。果たして日本のオオカミはいったいどのくらいの大きさだったのか。ニホンオオカミが絶滅してしまった今となっては、（　B　）、その真実を知ることは難しい。

ニホンオオカミの姿を知る手がかりとなる現存する剥製はわずかに六体。それらの体高はいずれも（　Ⅰ　）センチメートル足らずだと言う。これは紀州犬などの中型犬と同じくらいの大きさである。

一方、ヨーロッパに分布するタイリクオオカミの体高は約八〇～九〇センチメートル。これはイヌ科最大の大きさである。大型犬のシェパードの六〇センチメートルやドーベルマンの（　Ⅱ　）センチメートルと比較してもずっと大きいから、こんなオオカミと出くわしたら、相当、恐ろしいだろう。

（　C　）、ニホンオオカミはそれに比べると、はるかに小さい。実際にインドオオカミなどアジアのオオカミはヨーロッパのものに比べてずいぶん小型である。

じつは、ニホンオオカミは恐ろしい動物ではなかったのではないか、と考えられている。

意外なことに、手出しさえしなければニホンオオカミは人を襲うことは滅多になかったと伝えられているのである。

オオカミの大きさが小さかったというだけでなく、西洋と日本の生活様式の違いも、オオカミの扱いに深く関係する。西洋では羊などの牧畜が盛んだったので、家畜を襲うオオカミは恐ろしい害獣として扱われていたことだろう。それが、三匹の子豚や赤頭巾、七匹の子ヤギなどに描かれる悪者のオオカミのイメージを作り上げたのである。これに対して、仏教で肉食が禁止されていた日本では、鶏や農耕用の馬くらいしか家畜がいなかった。むしろ、田畑を荒らすシカやイノシシが害獣だったので、

それらを襲うオオカミは、害を防ぐ益獣だった。つまり、西洋と日本では、オオカミに対して①<u>まったく正反対のイメージを抱いていたのである</u>。

私たちはオオカミのことを、とんでもない誤解をしていたのかも知れない。オオカミは恐ろしい、という私たちのイメージは、西洋文明が作り上げたものだったのだ。

動物のオオカミの語源は、じつは「大神」なのである。むしろ一説には、逆に大神の語源こそがオオカミだ、という人さえいるくらい神とオオカミは密接な関係にあるのである。

オオカミが神として扱われていたのは、前述したようにシカやイノシシなどの害を防いでくれたからである。そのため、人々は、オオカミを祭った神社にオコゼの干し魚などを供えて、オオカミが山を下りてくるようにおびき寄せたという。

またオオカミは、（　X　）を主張するために、神社の中に自分の匂いをつける。このオオカミの匂いは、シカやイノシシなどを避ける効果があるため、人々は神社の石を拾って帰ったのだという。

この石の効力はおよそ一年。そのため人々は、一年経つと神社に新しい石を拾いにいったのである。この風習、どこかで聞いたことがあると思ったら、古くなったお札やお守りを神社に返しにいく我々の習慣とまったく同じである。

これと同じことは稲荷大社のキツネに対しても行われたと言われている。（　Y　）はキツネの大好物である。その（　Y　）を稲荷大社に供えるのは、キツネを人里近くの神社までおびき寄せる目的もあったというのだ。里に下りてきたキツネは、田畑のネズミを餌とするし、オオカミのときと同じように、人々は匂いのついた石を持って帰ったのだという。

ところで、オオカミを祭る神社には興味深い言い伝えが残されている。オオカミを祭る埼玉県の三峯神社では、参拝の帰り道をオオカミが守ってくれることになっていたという。そして、参拝者は、一の鳥居付近で礼を言ってオオカミに帰ってもらったのだという。

また、とげが刺さって苦しんでいたオオカミを助けたら、恩返しにオオカミが山道を送ってくれるようになったという「狼報恩」の昔話も多く伝えられている。このほかにも山道をオオカミが送ってくれたという類いの話はよく耳にする。いわゆる「送り狼」である。

昔話に語り継がれるこの送り狼は、実際にあるという。オオカミは、自らのなわばりの中を人間が通ると、後をついてなわば

りの外に出るまで監視する「送り行動」の習性があるのだ。これは、人を襲うためではなく、自らの家族の安全を守るためだったから、もちろん人間に危害を加えることはない。むしろ、オオカミがついていてくれれば、イノシシやクマなどが避けてくれるから、安心だったはずだ。そのため、人々はオオカミの「送り行動」を ②親切で送ってくれているものと勘違いしていたのである。

確かに、オオカミも親切心で送ってくれるばかりでなく、「送り狼」の話の中には、逃げたり転んだりすると食べられてしまう、という言い伝えもある。これも、どうやら本当らしい。オオカミはウサギやシカなど逃げる獲物を追いかける本能がある。そのため、警戒している相手が逃げたり、不意な行動をすると思わず襲ってしまうのだ。だから、言い伝えのとおり、転ばぬようにゆっくりと歩けば、送り狼はしっかりとなわばりの外まで送ってくれるのである。

それにしても、神と祭られていたはずのオオカミが、③どうして日本からいなくなってしまったのだろう。

じつは、江戸時代中期の一七三二年（享保十七年）、ある事件が起こった。外国から日本に、狂犬病が持ち込まれたのである。九州に侵入した狂犬病は、またたく間に日本中に広がったと伝えられている。そして、その狂犬病が犬ばかりでなくオオカミにも蔓延したのである。もともとオオカミは集団で生活するので、病気の蔓延も早かったのだろう。よく知られているように、狂犬病にかかった犬は凶暴になり、人に咬みつくようになる。そして、狂犬病に冒されたオオカミもまた、人を襲うようになったのである。

ニホンオオカミは、人を食い殺すようなことはなかったが、狂犬病のオオカミに咬まれた人は、狂犬病に感染し、なす術もなく死んでしまう。何しろ狂犬病は、医療の進んだ現代でも、なお致死率一〇〇パーセントの恐ろしい病気である。オオカミに咬まれた人が次々に死んでいく現実を前に、昔の人々は恐怖におののいたことだろう。

やがて、悲惨なオオカミの被害が広がるにつれて、神格化されたオオカミの地位も崩壊していった。そして、時代は明治に移り、文明開化によってオオカミを敵視した西洋文明が日本に押し寄せてきたのである。

自然を生かし、自然の恵みとともに生きる伝統的な日本の暮らしに対して、西洋文明は自然と敵対し、自然を克服することによって人間の暮らしを守る自然観である。

文明開化によって西洋の文明に魅せられた人々は、こうした④西洋の自然観に従って、これまで守られてきた森の木々を伐採

し、次々に開発を進めていった。そして、牧場が拓かれ、牛や羊が飼われるようになったのである。生息地の森林を奪われたオオカミたちは、やがて家畜を襲うようになり、人々はオオカミを敵視する。まさに西洋の構図そのものである。

　こうして、かつて神だったオオカミは、やがて害獣のレッテルを貼られるようになってしまった。そして、ついには政府が狼害対策のために高額な賞金を出して、オオカミ退治に乗り出したのである。

　それにしても、オオカミの減少はあまりに急激すぎる。明治二十年にはまだ各地で見られたはずのオオカミが、明治三十年代にはほとんど姿を消してしまっているのだ。いくら害獣として駆除されたといっても、こんなに簡単にいなくなってしまうものなのだろうか。

　じつは、原因は人間による狩猟だけではなかったと考えられている。さらに、オオカミに致命的な追い討ちをかける事件があったのである。その悲劇の種もまた、西洋からもたらされた。

　明治になると、外国との交流が盛んになった。そして、ジステンバーなどの伝染病が海外から持ち込まれてしまったのである。通常の病気に対しては、動物はある程度の抵抗力を持っているから、病気で全滅してしまうようなことはほとんどない。ところが、狂犬病のときもそうだったように、初めて出くわす海外の病気に対して、ニホンオオカミは免疫をまったく持たないから、被害は致命的になる。こうして、日本にたくさんいたオオカミは、急激にその数を減少させていったのである。

　そして、時は明治三十八年。奈良県で撃たれた一頭を最後に、その後、日本でオオカミを見ることは金輪際できなくなってしまった。そして、⑤日本の「大神」はこの世から永遠に葬られてしまったのである。

　オオカミはけっして怖くない。怖いのは、自然への畏敬の念を忘れてしまった人間のほうかも知れないのだ。

（蓮実　香佑『おとぎ話の生物学――森のキノコはなぜ水玉模様なのか？――』より）

問一 本文中には次の文章が抜けています。どこに入りますか。直前の五字を抜き出して答えなさい。

それもそのはず、一年ごとにお札やお守りを買い改めるというこの風習こそが、一年ごとにオオカミの匂いの石を拾いにいく風習に由来しているらしい。毎年買わせるための神社の商売戦略ではないかと今まで勘ぐっていたが、まったくの誤解だったのだ。

問二 本文中の（　A　）～（　C　）にあてはまる言葉として最もふさわしいものを、次の**ア**～**ウ**の中からそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。

ア　もはや　　**イ**　しかも　　**ウ**　しかし

問三 本文中の（　Ⅰ　）、（　Ⅱ　）にあてはまる数として最もふさわしいものを、次の**ア**～**ウ**の中からそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。

ア　一〇〇　　**イ**　七〇　　**ウ**　五〇

問四　――線部①「まったく正反対のイメージを抱（いだ）いていたのである」とありますが、どのようなイメージですか。次の一文の（　ア　）（　イ　）にあてはまる二字の熟語を、それぞれ本文中から抜（ぬ）き出して答えなさい。

西洋ではオオカミのことを（　ア　）だと考えていたが、逆に日本では（　イ　）だと考えられていたということ。

問五　本文中の（　X　）にあてはまる言葉を、本文中から四字で抜き出して答えなさい。

問六　本文中の（　Y　）にあてはまる言葉としてふさわしいものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア　とうふ　　イ　油揚（あ）げ　　ウ　うどん　　エ　甘酒（あま）

問七　――線部②「親切で送ってくれているものと勘違（かんちが）いしていたのである」とありますが、オオカミはなぜ送ってくれたのですか。本文中から十三字で抜き出して答えなさい。

問八　――線部③「どうして日本からいなくなってしまったのだろう」とありますが、オオカミはどのような過程でいなくなってしまったのですか。その過程がわかるように、次のア～オを正しい順序に並べ替え、記号で答えなさい。

ア　政府が狼害対策に乗り出した。
イ　文明開化で西洋化が進んだ。
ウ　狂暴化したオオカミが人を襲った。
エ　伝染病で数が減少した。
オ　神格化した地位が崩壊した。

問九　――線部④「西洋の自然観」とありますが、それにもとづいて行われている産業として最もふさわしいものを、次のア～エの中からそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。

ア　ダムを建設して水力発電を行う
イ　湾の形を利用して養殖漁業を行う
ウ　水はけのいい土地で稲作を営む
エ　森の木々を伐採して林業を営む

問十　――線部⑤「日本の『大神』はこの世から永遠に葬られてしまったのである」とありますが、今後「永遠に葬られ」てしまうことがないように、守っていくべき「日本の文化」は何だと思いますか。あなたの考えを二百字以内で書きなさい。

二〇一九年度 国語 解答用紙 第二回 （二月一日午後）

多摩大学附属聖ヶ丘中学校

受験番号

氏 名

得 点 ＊

＊印のところは、何も記入しないでください。

一

(1)

(2) やし

(3)

(4) ら

(5) し

(6)

(7)

(8)

(9) づいて

(10)

小計 一 ＊

二

(1)

(2)

(3)

(4)

(5)

小計 二 ＊

三

小計 三 ＊

＊実際の解答用紙はＢ４判です。

＊実際の解答用紙はB4判です。

二〇一九年度　国語　解答用紙　（二月一日午後）　多摩大学附属聖ヶ丘中学校

四

問一

問二　A　B　C

問三　Ⅰ　Ⅱ

問四　ア　イ

問五

問六

問七

問八　→　→　→　→

問九

問十

小計　四　＊

受験番号

氏名

得点　＊

＊印のところは、何も記入しないでください。

二〇一九年度 国語 解答用紙 第二回（二月一日午後）

多摩大学附属聖ヶ丘中学校

受験番号	氏名	得点
		＊

＊印のところは、何も記入しないでください。

一

(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)
ゆかた	ついやし	きじ	もっぱら	おかし	酸化	聖火台	俳優	基づいて	署名

各１点×10　小計一　＊10

二

(1)	(2)	(3)	(4)	(5)
ア	ウ	イ	イ	イ

各２点×５　小計二　＊10

三

カブト虫の角の生え方に重要な役割を果たす遺伝子を特定したと研究グループが発表した。こん虫の角の進化の過程を知る手がかりとなるという。角はオスの場合頭部からのびた大きなものと、背中側の小さなものがあり、さなぎになる直前の幼虫段階で現れ始める。

小計三　＊20

＊実際の解答用紙はＢ４判です。

二〇一九年度　国語　解答用紙

（二月一日午後）

多摩大学附属聖ヶ丘中学校

＊実際の解答用紙はB４判です。

受験番号

氏名

＊印のところは、何も記入しないでください。

得点 ＊

四

問	解答
問一	じである。
問二	A イ　B ア　C ウ
問三	I ウ　II イ
問四	ア 害獣　イ 益獣
問五	なわばり
問六	イ
問七	自らの家族の安全を守るため
問八	ウ→オ→イ→ア→エ
問九	ア
問十	

問一……6点
問二……2点×3
問三……4点×2
問四……4点×2
問五……4点
問六……3点
問七……5点
問八……5点（完答）
問九……5点
問十……10点

小計 四 ＊ 60